

【高刺激の場所・その2】

（前回から続く）

「みんなちがって みんないい」の反対は「みんな同じで みんないい」です。そして、そのような価値が一番支配している場所、実はそれは学校なのです。

それでは今それを「学校的価値」と呼び、さらに具体的に考えて行きましょう。「学校を支配している価値」、それは何でしょうか？

まず、すぐに頭に浮かぶことは、勉強ができることが良いことで、勉強ができないことは悪いことであるという価値観、特に成績、テストの点数、偏差値には強く反映しています。知識の蓄えがあることが良いことで、知識が少ないことは悪いこととなります。今や勉強ができないことが笑いの対象になります。「学校的価値観が蔓延する社会」のことを「学校化社会」と呼びますが、現代日本においては、テレビの中までが「学校的価値観」に支配されています。

どのチャンネルを回してもタレントが並ぶクイズ番組、まるでピント外れの答えに、そして余りにも幼稚な答えの回答者を皆が馬鹿にして笑い、つまりできない人を笑いものにして視聴率を稼いでいます。タレント回答者の中には、おそらく背景に自閉スペクトラム症があって、空気が読めず、珍答を返してしまう方もいます。それがまた大爆笑の対象になります。できない人を馬鹿にして笑って視聴率を稼ぐ、人の道から外れた世界がここにあります。

「頑張ること」が良いことで、「頑張れないこと」は悪いことです。「早いこと」は良いことで「遅いこと」は悪いことです。「みんなと同じこと」が良いことで「みんなと違うこと」は悪いことです。「学校に行く」ことは良いことで「学校に行かない or 行けないこと」は悪いことです。「強い自己主張」は悪いことで「協調的ある」ことが良しとされます。

ちょっと違う視点で…

「挨拶ができること」は良いことで「挨拶ができないこと」は悪いこと、「偏食」は悪いこと、「偏食がないこと」は良いこ

とです。「ルールを守る」ことは良いことで「ルールを守らない」ことは悪いことです。

「皆と仲良くすること」は良いことで「孤立」は悪いこと、「元気で明るいこと」は良いことで「暗くおとなしいこと」は悪いことです。

どうも「学校的価値」が蔓延する場所では自閉スペクトラム症の方の暮らしは息苦しそうです。

触覚過敏があって学制服の詰襟が止められないのを学校は受け入れてくれるでしょうか？

聴覚過敏で避難訓練のベルがとてつもなく辛いからと、その日学校を休むのを受け入れてくれるでしょうか？

・・・etc

こんな風に考察して来ると、学校というところを良いところが一つもない「悪の権化」であると言っているかのように感じられる方もいらっしゃると思いますが、お伝えしたいことは、そんなことではありません。

問題は、何十年とそのような学校的な価値が強く支配している社会で暮らし続けていると、無意識のうちにそれを自分の判断基準に取り入れて、できることは良いこと、できないことは悪いことに無自覚になることです。

目の前に行動障がい呈する自閉症の方がいる。そして、その方に本人中心の支援を提供したいと思う時に、この学校的価値が本人中心の発想を邪魔します。

「日曜日くらい一日中パジャマでも良いよね」には、「みんな着替えているでしょ、起きたら着替える、約束でしょ」という返答が返ってくる可能性は相当高いでしょう。「ご飯にふりかけかけたいなあ」には、「一人だけかけたらみんなが羨ましがるでしょ」と答えが返りそうです。

これらの返答全てが、学校的価値の支配下にあります。

幸せは一人一人違います。だから幸せになるための応援の方法は一人一人違います。「みんなちがって、みんないい」なのです。脱学校価値、個別支援はまずそこから始まります。